

性感染症の基礎知識 —「愛している」だけではダメ！—

“性感染症”と聞いて思いつくのは・・・エイズぐらいでしょうか？でも、性感染症はエイズではありません。最近、若い人たちの間にクラミジアや淋菌などの性感染症が広がっています。とくに若い女性の感染がめだって増えています。あなたとパートナーのからだだけでなく生まれてくる赤ちゃんにも悪い影響を及ぼすことがある性感染症。あなた自身を守り、愛する人を守るために性感染症のことを知っておきましょう！

[性感染症についての Q and A のページ](#)

性感染症とはなにか

性感染症というのは、セックスやキスなどの性行為によってうつる病気をいいます。

その多くはセックスのときに性器と性器が直接ふれあうことで感染しますが、オーラルセックスでクラミジアや淋菌などの病原菌が口・のどにうつることもあります。一方、エイズの場合は、病原菌を含んだ血液や体液が相手の傷口や性器の粘膜などを通じて体内に入り込むことで感染します。性感染症は性器だけの病気ではありません。

性感染症にはどんなものがある？

梅毒・淋菌感染症・尖圭コンジローマ・クラミジア感染症・ウィルス性肝炎・毛じらみ症・HIV 感染症/エイズ・トリコモナス膣炎・性器ヘルペス感染症などあります。性感染症といっても、性行為とは別のルートで感染する場合があります。たとえば、エイズウィルス（HIV）や肝炎ウィルスは、輸血、血液製剤の使用、注射針の使い回しなどによっても感染することがあります。また「母子感染」といって、お母さんから赤ちゃんに感染することもあります。

性感染症の最近の動向

性感染症のなかで一番多いのはクラミジア感染症で、次が淋菌感染症です。どちらも、最近、増加しています。年齢でみると、20歳代前半にピークがあり、30歳未満の若年層だけで全体の65%を占めています。また、若年層では圧倒的に女性患者が多くなっています。クラミジア感染症は女性に、淋菌感染症は男性にみつかることが多いのが特徴です。

性感染症の特徴

①感染しても自覚症状が出ない場合があるので、感染に気づきにくい、②セックスパートナーへの感染率が高い。（クラミジア、淋菌では50%以上）、③HIV感染症／エイズのように感染してから発症するまでの期間（潜伏期間）が長いものがあり、その時期にも他の人に感染する可能性が

あるなどが特徴です。知らないうちに自分が感染源になっていたり、反対に、相手からうつされるということがおこりやすいのが性感染症なのです。

なぜ、若い人たちに広がっているのか

セックスを中学、高校時代に経験する人が増えています。複数の相手とセックスしたり、お金のために見ず知らぬ人とセックスする人もいます。また、こういうことをあおるような性情報が溢れています。それなのに、大切な自分のからだを守るための避妊や感染予防の方法については、驚くほど無知だったり無関心だったりします。こうしたことが若い人に性感染症が広がる原因になっているのです。

射精のときだけコンドームをする。膣外射精をする。これらは性感染症予防に有効でしょうか？答えはノーです。感染予防にはまったく無効、避妊方法としても不完全です。オーラルセックスやアナルセックスなら性感染症にかかりにくい。これは正しいですか？答えはもちろんノーです。オーラルセックスは安全なところか性器にいる病原菌を口やのどに運ぶ役割をしますし、アナルセックスは出血を伴いやすく、傷口から感染する危険性が高くなります。

おもな性感染症とその治療法

1. クラミジア感染症と淋菌感染症

原因は：クラミジア感染症はクラミジア・トラコマティス、淋菌感染症は淋菌が原因です。どちらも感染者とのセックスで性器に感染するほか、オーラルセックスで口・のどにも感染します。この2つの感染症は、感染経路・症状・感染の広がりかたが似ていて、検査法や治療法もほぼ同じです。

潜伏期間は：クラミジアは1～2週間、淋菌は3～5日間です。

症状は：女性：ほとんど無症状ですが、おりものが増加する傾向があります。男性：クラミジア感染ではほとんど無症状です。淋菌感染では、感染者の90%で排尿時に痛みを感じたり尿道から膿が出る症状が出るといわれています。男女とも口の中の感染ではほとんど症状が出ません。

放っておくと：女性：炎症が膣から子宮頸管、卵管、さらに腹腔（おなかの中）に広がります。症状が進むと下腹部痛や性交痛が起きることがありますし、将来の不妊の原因になったり、子宮外妊娠、流産、早産の原因になったりします。生まれてくる赤ちゃんに感染して肺炎や結膜炎などの病気になる可能性もあります。男性：炎症が尿道から精巣へと進むと、無精子症になることがあります。

検査方法は：女性：おりものを綿棒でとって調べます。クラミジア卵管炎・腹膜炎が疑われる場合は血液検査をします。男性：尿検査やペニスから出る膿をとって検査します。1回の検査でクラミジア感染と淋菌感染の両方の結果がわかります。

治療法は：飲み薬による治療が基本です。クラミジア卵管炎・腹膜炎、淋菌感染症で重症化した場合には点滴治療が注射することもあります。

治療のポイントは：①処方された薬は指示どおりに全部服用する。②パートナーも一緒に検査と治療を受ける。③治療終了後、治っているかどうか再検査を受ける。④完治を確認するまでセックスはしない。

2. 性器ヘルペスウイルス感染症

原因は：単純ヘルペスというウイルスが原因です。感染者とのセックスで感染します。ただし、感染しても発症しない場合があります。

潜伏期間は：3～7日間

症状は：外陰部に小さな水疱ができ、水疱が破れるとびらん（ただれ）になります。外陰部の違和感から始まり、ピリピリとした痛みを感じます。水疱が破れると排尿時や入浴時に激しい痛みを感じます。

検査方法は：外陰部の水疱やびらんを肉眼で確認します。細胞をとって診断することもあります。

治療法は：無治療でも3～4週間で自然治癒しますが、塗り薬と飲み薬を用いることで早く治ります。初感染のときは重症化しやすく、その場合は薬を点滴することもあります。一度発症すると同じ場所に再発することがよくあります。

3. 尖圭コンジローマ

原因は：ヒトパピローマウイルスの感染者とのセックスで性器に感染します。感染しても発症しないことがよくあります。女性に多くみられます。

症状は：外陰部に小さな疣（いぼ：腫瘤）が数個できます。痛みはありませんが、そのままにしておくと、いぼが徐々に大きくなりながら数を増し、外陰部から膣に広がります。

検査方法は：外陰部のいぼを肉眼で確認し、診断します。肉眼でわからないときは切除して検査に出します。

治療法は：切除する方法、レーザーや液体窒素で焼いて治療する方法などがあります。

4. トリコモナス膣炎

原因は：トリコモナス原虫の感染者とのセックスで性器に感染して発症します。まれに、浴場やプールで感染することもあります。

症状は：おりものが増え、外陰部かゆくなりますが、無症状の場合もあります。

検査方法は：おりものをピンセットでとって検査します。

治療法は：飲み薬や膣内に入れる坐薬で完治します。

治療のポイント：パートナーと必ず一緒に検査と治療を受ける（そうしないと再感染する）。

5. 梅毒

原因は：梅毒トレポネーマという病原菌が感染者とのセックスによって感染します。お母さんが梅毒にかかっていると、赤ちゃんも感染します。

症状は：1期梅毒：感染後3週間で感染箇所（女性は外陰部、男性はペニス、陰囊）に小さなしこりができ、潰瘍に進展しますが、気がつかないことがよくあります。

2期梅毒：感染後3ヶ月で全身に梅毒特有の湿疹が現れます。放っておくと内臓、心臓、血管、骨、中枢神経などの全身の器官が侵されることがあります。感染後20年ぐらいてしてから神経梅毒や心血管梅毒を発症することもあります。無治療のまま妊娠すると流産や死産が起きやすく、無事に生まれた赤ちゃんにも梅毒の症状が出ます。

検査方法は：採血して血液検査をします。

治療法は：ペニシリン系の抗生物質がよく効きます。4～12週間治療をし、その後、血液検査をして治ったかどうかを判定します。完治すれば再発は起こりません。

治療のポイント：医師の指示通りの治療をきちんと受ける。定期検査を受け、治るまで治療を続ける。パートナーも必ず検査を受ける。

6. HIV感染症/エイズ

原因は：HIV（ヒト免疫不全ウィルスの略称）というウィルスがエイズの原因です。このウィルスは血液、精液（男性）、膣分泌物（女性）にいます。感染者とのセックスで感染することが多いのですが、ほかに薬物濫用（注射器の使い回し）、感染者の血液から作られた血液製剤の使用などでも感染します。妊娠中や出産時に母子感染することもあります。

潜伏期間は：数年～十数年と長期間にわたります。

症状は：H I Vに感染してもエイズを発症するまでには何年もかかります。(上記の潜伏期間)。この状態をH I V感染症と呼びます。症状は出ませんが、他の人に感染することがあります。やがてH I Vが増殖しはじめると、からだの免疫機能が低下してさまざまな感染症に繰り返しかかるようになります。(日和見感染という。) この段階でエイズが発症したことになります。病状が進むと神経症状や悪性腫瘍、全身衰弱などが合併して死に至ります。

検査方法は：採血して血液検査します。H I Vに感染しているかどうかの検査と、エイズが発症しているかの検査があります。

治療法は：飲み薬による治療が基本になります。最近では、エイズ発症を遅らせたり、免疫機能を維持・回復することが可能な薬が用いられるようになり、このため、エイズ発症前にH I V感染に気づいて治療を受ければ、死に至ることは極めて少なくなりました。

H I V感染者とエイズ患者数の年次推移：H I Vに感染した人はこれまで全世界で5千万人以上、そのうえ2千万人以上がすでに死亡しています。日本では、毎年6 0 0人ずつ感染者が増えています。このまま放っておくと、日本でもエイズが爆発的に広がるおそれがあります。最近のクラミジア・淋菌感染症の増加は、「このまま性感染症に無関心でいると、そのうちエイズも広がるぞ」という警告かもしれません。

H I Vの感染経路：「エイズの同性愛者の病気」という間違ったイメージがありますが、実際は男女間のセックスで感染する人のずっと多いのです。

感染防止とパートナーシップ

将来のことを考えよう

性感染症は、症状が出にくかったり軽いものが多いので、治療を受けないでほったらかしになっていることがよくあります。また、「恥ずかしい」とか「検査や治療でイヤな思いをするのでは」という気持ちが受診をためらわせたりします。でも、性感染症を放っておくと、あなたの未来に重大な影響を与えることがあります。子供がほしいのになかなか妊娠しないとか、妊娠したのに流産してしまうとか、赤ちゃんが病気になってしまうとか・・・そういうことが起こる可能性があるのです。

あなたが自分のからだを守りたいのなら、将来のことを真剣に考えるなら、迷わずに検査を受けましょう。

陰部のかゆみやできものに気がついて、市販薬で治そうとする人がいますが、かえって症状を悪化させる危険性があります。恥ずかしがらずに、早めに医師に診せてください。

パートナーの検査と治療

性感染症のなかでもとくに感染しやすいのは、クラミジア、淋菌、トリコモナスです。これらの性感染症に女性か男性のどちらかが感染すると、相手も50%以上の確率で感染します。ですから、どちらかが性感染症と診断されたら、パートナーも必ず検査を受けてください。一方が治療して治っても、他方が感染したままではすぐに再感染してしまいます。

検査を受ける際には、女性がかかっている産婦人科医が紹介状を書きますから、男性はそれを持って泌尿器科へ行けばOKです。

性感染症予防のポイント

- ☐ 知らない人と性的接触をもたない
- ☐ コンドームを確実に使う
- ☐ オーラルセックスをしない（する場合はコンドームを使う）

安全なセックスとは

エイズも、その他の性感染症も感染予防の基本は同じです。自分のからだは自分で守るという気持ちを忘れずに、セックスの相手を選び、セックスをするときは必ずコンドームを使い、オーラルセックスは拒否するなどのしっかりした態度をとって、性感染症を防ぎましょう。

コンドームを使うことに協力してくれないパートナー、あなたにリスクを負わせて平気なパートナーは、あなたを本当に愛しているのでしょうか。よく考えてみて下さい。

当然のことですが、コンドームはセックスの最初から最後まで（オーラルセックスでも）装着していなくては意味がありません。